



2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年1月30日

上場取引所 東

上場会社名 フジッコ株式会社

コード番号 2908 URL <https://www.fujicco.co.jp>

代表者 （役職名） 代表取締役社長執行役員 （氏名） 福井 正一

問合せ先責任者 （役職名） 上席執行役員経営企画本部長 （氏名） 小段 健男 TEL 078-303-5921

配当支払開始予定日 —

決算補足説明資料作成の有無：無

決算説明会開催の有無：無

（百万円未満切捨て）

1. 2026年3月期第3四半期の連結業績（2025年4月1日～2025年12月31日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2026年3月期第3四半期	42,727	△2.6	1,281	39.7	1,662	27.7	1,385	41.8
2025年3月期第3四半期	43,845	2.5	917	△44.8	1,302	△34.6	976	△29.9

（注）包括利益 2026年3月期第3四半期 2,211百万円（133.4％） 2025年3月期第3四半期 947百万円（△51.5％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第3四半期	48.65	—
2025年3月期第3四半期	34.31	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
2026年3月期第3四半期	80,589	69,599	86.3
2025年3月期	79,429	68,596	86.4

（参考）自己資本 2026年3月期第3四半期 69,516百万円 2025年3月期 68,596百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	23.00	—	23.00	46.00
2026年3月期	—	23.00	—		
2026年3月期（予想）				23.00	46.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	円 銭
通期	56,600	△0.8	1,650	45.9	1,900	22.2	1,350	41.8

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：有

新規 2社 (社名) FB Food Service (2017) Co., Ltd.、FUJICCO FOODS ASIA CO., LTD.

除外 2社 (社名) 株式会社フーズパレット、フジッコNEWデリカ株式会社

(注) 詳細は、添付資料8ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2026年3月期3Q	30,050,759株	2025年3月期	30,050,759株
② 期末自己株式数	2026年3月期3Q	1,578,659株	2025年3月期	1,582,059株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2026年3月期3Q	28,470,730株	2025年3月期3Q	28,467,381株

(注) 期末自己株式数には、「株式給付信託(J-E S O P)導入において設定した株式会社日本カストディ銀行(信託Eロ)」が保有する当社株式数が含まれております。また、期中平均株式数の計算において控除する自己株式には、「株式給付信託(J-E S O P)導入において設定した株式会社日本カストディ銀行(信託Eロ)」が保有する当社株式の期中平均株式数が含まれております。

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「1. 経営成績等の概況(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	8
(企業結合等関係)	9
3. 補足情報	12
(1) 販売の状況	12
(2) 研究開発活動	12

1. 経営成績等の概況

（1）当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果により、景気は緩やかな回復傾向で推移しておりますが、米国の通商政策の影響や金融・資本市場の変動等により、先行き不透明な状況が続いております。

食品業界におきましては、物価高騰による消費者の節約志向は継続し、依然として厳しい経営環境となりました。

このような環境の中、当グループにおきましては、「2025-2027中期経営計画」に基づき、経営効率の向上を目的とした事業ポートフォリオの再構築に取り組みました。8月には、株式会社フーズパレットの全株式の譲渡、10月には、フジッコNEWデリカ株式会社を吸収合併し、おかず関連事業にかかる経営リソースの集約と最適化を図りました。

さらに、11月から12月にかけては、タイ国のFB Food Service (2017) Co., Ltd.の株式取得及び中間持株会社FUJICCO FOODS ASIA CO., LTD.を設立するなど、海外事業拡大に向けた基盤整備を進めました。

販売面では、昆布製品、ヨーグルト製品が前年実績を上回ったものの、惣菜製品、デザート製品、豆製品が前年実績を下回り、売上高は427億27百万円（前年同四半期比2.6%減）となりました。

利益面では、投資効率を意識した広告宣伝の実施や、ヨーグルトの新商品投入をはじめとした商品力の強化に取り組んだ結果、収益性が改善し、営業利益は12億81百万円（前年同四半期比39.7%増）となりました。経常利益は16億62百万円（前年同四半期比27.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は13億85百万円（前年同四半期比41.8%増）となりました。

製品分類別の販売状況は、次のとおりであります。

惣菜製品は、前年実績を下回りました。包装惣菜は、「おぼんざい小鉢」が堅調に推移しましたが、調味食品や「朝のたべるスープ」が低調に推移したことから前年実績を下回りました。日配惣菜は、新規取引先の開拓に取り組みましたが、主要取引先の品揃え変更や値上げによる物量減の影響を受け、前年実績を下回りました。

昆布製品は、物価高騰の中でお得感が評価された塩こんぶが好調に推移し、前年実績を上回りました。カップ佃煮「ふじっ子煮」については、9月に東日本、10月に西日本でTVCMを放映したことにより、値上げ後に一時的に低下した販売数量は回復し、前年並みで推移しました。また、12月からはブランド醸成と需要拡大を目的とした「よろこんぶキャンペーン2026」を実施しております。

豆製品は、「おまめさん豆小鉢」が堅調に推移した一方で、袋タイプの煮豆や水煮・蒸し豆シリーズは販売が伸び悩み、前年実績を下回りました。12月の年末商戦においては、「おまめさん 丹波黒黒豆」の売場作りの早期展開に加え、黒豆の「かため食感」を好むお客様ニーズに応えた新商品「おまめさん 新味かため炊き丹波黒黒豆」を発売いたしました。しかしながら、おせち市場のダウントレンドの影響を受け、12月の黒豆全体の販売は前年実績を下回りました。

ヨーグルト製品は、「まるごとSOYカスピ海ヨーグルト」と9月に新発売した「カスピ海ヨーグルト リッチモ プレーン」が好調に推移し、前年実績を上回りました。カスピ海ヨーグルトについては、トライアル獲得とリピート率の向上を目的に、発売20周年を記念した「もっと！とろお〜もっちキャンペーン」を実施し、SNSを活用したWeb広告を展開いたしました。

デザート製品は、「フルーツセラピー」の物量確保が想定通り進まず前年実績を下回りました。若年層をターゲットとしたSNS連動キャンペーンを実施し、認知度や話題性の向上を図りながら販売回復に取り組みしました。

（2）当四半期の財政状態の概況

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ11億59百万円増加し、805億89百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ20億94百万円増加し、366億36百万円となりました。これは主に、原料仕入の季節性に伴い、棚卸資産が増えたこと等によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ9億34百万円減少し、439億52百万円となりました。これは主に、保有する投資有価証券の時価評価の増加及び新規連結に伴うのれんの増加があった一方で、有形固定資産の減価償却が進んだこと等によるものであります。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ5億58百万円増加し、93億57百万円となりました。これは主に、賞与支給に伴う賞与引当金の取崩しがあった一方で、原料仕入れの季節性に伴う買掛金が増加したこと等によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末と比べ4億1百万円減少し、16億32百万円となりました。これは主に、退職給付信託の設定に伴う退職給付に係る負債の減少等によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ10億2百万円増加し、695億99百万円となりました。これは主に、配当金の支払いがあった一方で、親会社株主に帰属する四半期純利益の増加やその他有価証券評価差額金の増加、さらに新規連結に伴う非支配株主持分の増加等によるものです。

これらの結果、自己資本比率は、前連結会計年度末の86.4%から86.3%となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当期の連結業績予想は、2025年10月24日付で公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」のとおりであります。なお、実際の業績等は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,692	8,431
売掛金	9,598	12,721
商品及び製品	1,552	1,620
仕掛品	314	275
原材料及び貯蔵品	11,026	13,111
その他	359	493
貸倒引当金	△2	△17
流動資産合計	34,542	36,636
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	41,989	40,962
減価償却累計額	△27,737	△27,207
建物及び構築物（純額）	14,252	13,754
機械装置及び運搬具	34,027	34,517
減価償却累計額	△24,711	△25,371
機械装置及び運搬具（純額）	9,315	9,146
工具、器具及び備品	2,407	2,263
減価償却累計額	△1,801	△1,655
工具、器具及び備品（純額）	605	607
土地	11,975	11,366
建設仮勘定	228	295
有形固定資産合計	36,377	35,170
無形固定資産		
のれん	—	299
その他	713	635
無形固定資産合計	713	935
投資その他の資産		
投資有価証券	3,944	5,169
繰延税金資産	618	374
長期預金	1,000	—
その他	2,239	2,309
貸倒引当金	△5	△5
投資その他の資産合計	7,796	7,846
固定資産合計	44,887	43,952
資産合計	79,429	80,589

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	3,855	4,657
未払金	3,449	3,732
未払法人税等	294	47
未払消費税等	151	90
賞与引当金	479	106
預り金	77	262
その他	491	459
流動負債合計	8,799	9,357
固定負債		
退職給付に係る負債	1,057	565
従業員株式給付引当金	149	141
その他	826	925
固定負債合計	2,033	1,632
負債合計	10,833	10,990
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,566	6,566
資本剰余金	1,006	1,006
利益剰余金	62,383	62,458
自己株式	△3,046	△3,038
株主資本合計	66,909	66,992
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,594	2,429
為替換算調整勘定	—	11
退職給付に係る調整累計額	93	84
その他の包括利益累計額合計	1,687	2,524
非支配株主持分	—	82
純資産合計	68,596	69,599
負債純資産合計	79,429	80,589

（2）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
（四半期連結損益計算書）

（単位：百万円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 2024年4月1日 至 2024年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 2025年4月1日 至 2025年12月31日）
売上高	43,845	42,727
売上原価	30,914	30,383
売上総利益	12,931	12,344
販売費及び一般管理費	12,014	11,063
営業利益	917	1,281
営業外収益		
受取利息	3	14
受取配当金	276	279
受取賃貸料	46	46
売電収入	45	52
その他	51	57
営業外収益合計	423	450
営業外費用		
支払利息	0	0
賃貸費用	11	12
売電費用	27	24
為替差損	—	26
その他	0	5
営業外費用合計	38	69
経常利益	1,302	1,662
特別利益		
固定資産売却益	0	1
投資有価証券売却益	—	13
国庫補助金等収入	107	2
関係会社株式売却益	—	112
特別利益合計	107	128
特別損失		
固定資産処分損	40	102
投資有価証券評価損	—	1
特別退職金	—	71
特別損失合計	40	175
税金等調整前四半期純利益	1,369	1,616
法人税、住民税及び事業税	507	318
法人税等調整額	△114	△87
法人税等合計	392	231
四半期純利益	976	1,385
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	976	1,385

（四半期連結包括利益計算書）

（単位：百万円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 2024年4月1日 至 2024年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 2025年4月1日 至 2025年12月31日）
四半期純利益	976	1,385
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△6	835
退職給付に係る調整額	△23	△8
その他の包括利益合計	△29	826
四半期包括利益	947	2,211
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	947	2,211
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更）

連結の範囲の重要な変更

当第3四半期連結累計期間において、当社の連結子会社であった株式会社フーズパレットは、全株式を譲渡したにより、連結の範囲から除外しております。また、当社の連結子会社であったフジッコNEWデリカ株式会社は、当社を存続会社とする吸収合併により消滅したため、連結の範囲から除外しております。

さらに、タイ国において、株式取得によりFB Food Service（2017）Co., Ltd.を連結の範囲に含めるとともに、中間持株会社として新たに設立いたしましたFUJICCO FOODS ASIA CO., LTD.を連結の範囲に含めております。なお、これらの2社につきましては、2025年12月31日をみなし取得日としており、当第3四半期連結会計期間においては貸借対照表のみを連結しているため、四半期連結損益計算書に被取得企業の業績は含まれておりません。

（四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記）

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	2,601百万円	2,666百万円

（セグメント情報等の注記）

当グループは、製品の種類、性質、製造方法、販売市場の類似性から判断して同様・同系列の加工食品を専ら製造販売している単一セグメントであり、重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

（企業結合等関係）

（連結子会社の吸収合併）

当社は、2025年7月7日開催の取締役会において、当社の完全子会社であるフジッコNEWデリカ株式会社（以下「NEWデリカ」といいます。）を吸収合併することを決議し、2025年10月1日付で合併いたしました。

1 吸収合併の目的

当社は、コロナ禍における中食市場のニーズ変化にスピーディーに対応することを目的に、2021年8月に当社の日配惣菜の製造部門を独立させ新会社としてNEWデリカを設立いたしました。その後コロナ終息に加え、世界的なインフレによる食材価格の高騰、ガス電気等エネルギー価格の高騰、物流費上昇、人手不足による人件費上昇など取り巻く環境は大きく変化しました。

このような新たな環境に対応するため、当社はNEWデリカを吸収合併し、グループ全体として、生産・販売・物流・管理一体となったサプライチェーン全体の最適化を加速させるとともに、人財の交流や教育による人財育成に注力し、更なる事業競争力強化と経営効率の向上を図ってまいります。

2 合併の概要

（1）合併の日程

2025年10月1日

（2）合併の方式

当社を存続会社、NEWデリカを消滅会社とする吸収合併。

（3）合併に係る割当ての内容

NEWデリカは当社の完全子会社であるため、本合併による新株の発行およびその他金銭等の割り当てはありません。

（4）消滅会社の新株予約権および新株予約権付社債に関する取扱い

該当事項はありません。

3 当該子会社の概要

- | | |
|---------|----------------|
| （1）名称 | フジッコNEWデリカ株式会社 |
| （2）事業内容 | 各種食品の製造販売 |
| （3）資本金 | 90百万円 |

4 合併後の状況

本合併後、当社の名称、所在地、代表の役職・氏名、事業内容、資本金および決算期に変更はありません。

5 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 2019年1月16日）及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第10号 2019年1月16日）に基づき、共通支配下の取引として会計処理しております。

（株式取得による企業結合）

当社は、2025年9月25日開催の取締役会において、以下のとおり、FB Food Service (2017) Co., Ltd.（以下「FBF社」といいます。）の株式を取得し、子会社化することについて決議し、2025年10月10日付で株式譲渡契約を締結いたしました。また、株式取得と併せて、SBCS Co., Ltd.、SMBC Management Service Co., Ltd.、SMSB Co., Ltd.（以下「SBCSグループ」と総称します。）の3社と共同出資（当社49%出資）により、合弁会社たる当社子会社「FUJICCO FOODS ASIA Co., LTD.」（以下「FFA社」といいます。）を設立（2025年12月8日）することについても決議いたしました。

また、中間持株会社となるFFA社の現地における設立の手続きが2025年12月8日付で完了し、FFA社はSBCSグループが保有するFBF社の全株式を2025年12月24日付で取得いたしました。これにより、FBF社は当社の連結子会社となりました。

1 企業結合の目的

当社は、2026年3月期を初年度とする「2025-2027中期経営計画」のもと、基本方針「従業員の力を結集させ、お客様と共に昆布と豆の未来を創造する」を掲げ、コアビジネスの事業強化と中長期の収益基盤構築に向けた取り組みを進めております。中期経営計画達成のためには、グローバル展開が必要不可欠であると考えております。

この度、当社が株式を取得したFBF社はタイ国で様々な冷凍惣菜の製造・販売を行っており、コンビニなどのモダントレードや、レストランなどの業務用惣菜販売に強みを持ちます。FBF社が当社グループになることで、既存商品のみならず、当社の商品開発力を活かして、より健康で栄養に貢献する商品ラインアップの拡充や新たな販売チャネルの開拓を行い、タイ市場における事業の強化を図ることが可能と考えております。事業開始当初はタイ国内での販売が主体となりますが、海藻類、和惣菜を中心としたFBF社製品を通じて、世界中の人々の健康に貢献することを目指してまいります。将来的にはアジア諸国のみならず、欧米向けにフジッコブランド製品の製造・輸出も視野に入れて、当社のグローバルな成長を促進してまいります。

タイ国は東南アジアの中で最も日本食レストラン数が多く、タイ人は健康意識も高いことから、当社の経営理念をグローバルに実現する上で魅力的な市場であると認識し、当社は本取引を通じてアジア圏における事業拡大基盤を構築してまいります。このように、本取引は企業価値の更なる向上に資するものであると判断したため、この度株式取得を行いました。

2 企業結合の概要

（1）被取得企業の名称及び事業の内容

被取得企業の名称：FB Food Service (2017) Co., Ltd.

事業の内容：業務用食品製造・卸売事業

（2）企業結合日

株式取得日 2025年11月3日

みなし取得日 2025年12月31日

（3）企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

（4）結合後企業の名称

変更はありません。

（5）取得した議決権比率

30%

本株式取得後に、FFA社(当社の出資比率49%)がFBF社の株式を51%取得したことで、当社の議決権比率が54.99%(うち間接所有24.99%)となり、FBF社は連結子会社となりました。

（6）取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得したことによるものです。

3 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

2025年12月31日をみなし取得日としており、当第3四半期連結会計期間においては貸借対照表のみを連結しているため、四半期連結損益計算書に被取得企業の業績は含まれておりません。

4 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	453百万円
取得原価		453百万円

5 主要な取得費用の内容及び金額

アドバイザー費用等 68百万円

6 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれん

299百万円

なお、のれんは、当第3四半期連結会計期間末において取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算出された金額であります。

(2) 発生原因

今後の事業展開によって期待される将来の超過収益力から発生したものであります。

(3) 償却方法及び償却期間

投資効果の発現する期間で均等償却する予定であります。なお、償却期間については算定中であります。

7 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	1,170百万円
固定資産	210百万円
資産合計	1,380百万円
流動負債	332百万円
固定負債	40百万円
負債合計	373百万円

8 取得原価の配分

当第3四半期連結会計期間末において、企業結合日における識別可能な資産及び負債の特定が未了であり、取得原価の配分が完了していないため、その時点で入手可能な合理的情報に基づき暫定的な会計処理を行っております。

3. 補足情報

(1) 販売の状況

(単位：百万円)

製品情報	前第3四半期連結累計期間 (自2024年4月1日 至2024年12月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自2025年4月1日 至2025年12月31日)		増減額	(参考) 前連結会計年度 (自2024年4月1日 至2025年3月31日)	
	金額	構成比	金額	構成比		金額	構成比
惣菜製品	14,454	33.0%	13,607	31.8%	△846	19,064	33.4%
昆布製品	12,246	27.9%	12,461	29.2%	215	15,917	27.9%
豆製品	8,285	18.9%	8,023	18.8%	△261	10,483	18.4%
ヨーグルト製品	5,127	11.7%	5,264	12.3%	137	6,759	11.8%
デザート製品	2,181	5.0%	1,731	4.1%	△449	2,715	4.8%
その他製品	1,551	3.5%	1,638	3.8%	87	2,138	3.7%
合計	43,845	100.0%	42,727	100.0%	△1,118	57,077	100.0%

(注) 増減額は、当第3四半期連結累計期間と前第3四半期連結累計期間との比較で表示しております。

(2) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は7億32百万円であります。